

2026年3月期 決算説明資料



当社建造 18万2千トン型撒積運搬船



株式会社 名村造船所
NAMURA SHIPBUILDING CO.,LTD.

2026年6月

当社グループの主要構成



株式会社 名村造船所
NAMURA SHIPBUILDING CO.,LTD.



函館どつく株式会社



佐世保重工業株式会社



事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 新造船事業 鉄構事業 	<ul style="list-style-type: none"> 新造船事業 修繕船事業 鉄構陸機事業 	<ul style="list-style-type: none"> 修繕船事業 舶用機械事業
設立	1931年4月 (創業1911年)	1984年11月 (創業1896年)	1961年7月 (創業1946年)
資本金 ('26年3月末)	83億円	1億円[96%]	1億円[100%]
売上高 ('26年3月期)	1,590億円(連結) 1,284億円(単体)	337億円	160億円 (同社グループ連結)
事業所等	大阪市、佐賀県伊万里市他	北海道函館市、室蘭市他	長崎県佐世保市他

[]内%は名村造船所グループによる持株比率

2026年3月期実績 連結P/L



- ◆ 売上高および利益は最高益を記録した前期とほぼ同水準
当期純利益は法人税等の増加により17.7%減の216億円
- ◆ 資機材価格の高騰や人件費上昇があったものの、ハンディ型撒積運搬船から大型撒積運搬船なども建造するプロダクトミックス体制への移行が順調に進捗、全社一丸となった原価削減活動の効果に加え円安基調が利益を押し上げ

(単位：億円)	2025年3月期	2026年3月期	前期比	
売上高	1,592	1,590	△2	△0.1%
営業利益	295	281	△14	△4.7%
経常利益	295	295	0	0.1%
当期純利益	262	216	△47	△17.7%

※億円未満は四捨五入

増減率

2026年3月期決算の為替レート



◆ 2026年3月期の売上高平均レートは**151.80円/米ドル**となり前年同期比**1.80円**の更なる**円安進行**

	2025年3月期	2026年3月期	前期比
売上高平均レート (円/米ドル)	150.00円	151.80円	1.80円 円安
決算期末レート (円/米ドル)	149.52円	159.88円	10.36円 円安

※平均レート：為替予約済レートを含む円換算売上高総額 ÷ ドル建て売上高総額
(未入金かつ未予約のドル建て売上高は期末レートで円換算)

2026年3月期実績 セグメント別売上高



- ◆ 新造船事業は2.3%の増収
 - ハンディ型撒積運搬船と大型撒積運搬船等のプロダクトミックス建造体制への移行が順調に進捗したことに加え円安進行
- ◆ 修繕船事業は10.9%の減収
 - 主力の国内艦艇工事量が前期に比べ大幅に減少

売上高	2025年3月期	2026年3月期	前期比	
(単位：億円)				
新造船	1,229	1,256	28	2.3%
修繕船	230	205	△25	△10.9%
鉄構・機械	62	63	1	0.9%
その他	71	66	△5	△7.2%
計	1,592	1,590	△2	△0.1%

※億円未満は四捨五入

増減率

2026年3月期実績 セグメント別営業利益



- ◆ 新造船事業は**3.8%の増益**
 - ハンディ型と大型の撒積運搬船のプロダクトミックス体制移行が順調に進捗
 - 全社一丸となった**原価削減活動効果に加え円安進行**
- ◆ 修繕船事業は**56.9%の減益**
 - **国内艦艇工事量の減少により操業量が低下**

営業利益	2025年3月期	2026年3月期	前期比	
(単位：億円)				
新造船	276	286	11	3.8%
修繕船	36	16	△21	△56.9%
鉄構・機械	1	3	2	203.1%
その他	8	9	0	5.4%
消去又は全社	△27	△33	△6	—
計	295	281	△14	△4.7%

※億円未満は四捨五入

増減率

- ◆ 新造船事業は主力商品のハンディ型撒積運搬船の同型船連続建造効果による増産と円安により増収も資機材価格の高騰等やハンディ型撒積運搬船の船型変更対応に伴うコスト増等により減益
- ◆ 修繕船事業は主力である海上自衛隊艦艇の工事量が前期比で大幅減少したことで減収減益

(単位：億円)	2025年3月期	2026年3月期	前期比	
売上高	356	337	△19	△5.5%
営業利益	64	47	△17	△26.5%
経常利益	60	48	△13	△21.3%
当期純利益	53	33	△19	△36.6%

※億円未満は四捨五入

増減率

- ◆ 修繕船事業において外国艦艇や特殊船など技術難度の高い案件にも積極的に営業展開、機械部門では新造船の需要増加に伴う事業環境の改善により両部門とも増収
- ◆ 利益面では修繕船事業において艦艇修繕の多くが次年度にまたがる工事であり、工事量確保に苦戦したことなどから減益

(単位：億円)	2025年3月期	2026年3月期	前期比	
売上高	150	160	10	6.4%
営業利益	24	11	△12	△52.3%
経常利益	25	14	△11	△44.3%
当期純利益	29	15	△14	△49.5%

※億円未満は四捨五入

増減率

◆ 2026年3月期建造数：21隻

（ハンディ型撒積運搬船等17隻、LNG/MGO 二元燃料船を含む大型撒積船4隻）

◆ 2025年3月期建造数：25隻

（ハンディ型撒積運搬船23隻、LNG/MGO 二元燃料撒積運搬船1隻、VLGC 1隻）

※VLGC：LPG燃料対応大型LPG・アンモニア運搬船

ハンディ型撒積運搬船



LNG/MGO 二元燃料撒積運搬船



- ◆ 新造船受注増による**現預金の増加**、投資有価証券の時価上昇などにより**総資産が増加**
- ◆ 新造船受注増による**契約負債の増加**等により負債が増加
- ◆ 当期純利益計上等により純資産（株主資本の利益剰余金等）が増加

(単位：億円)

	前期末 (2025年3月期)	当期末 (2026年3月期)	前期比		前期末 (2025年3月期)	当期末 (2026年3月期)	前期比
流動資産	1,413	1,763	350	流動負債	784	951	167
固定資産	677	898	221	固定負債	255	336	81
				株主資本	844	1,028	184
				その他 純資産	208	347	139
資産合計	2,090	2,661	571	負債・純資産 合計	2,090	2,661	571

※億円未満は四捨五入

2026年3月期末 連結財政状態



- ◆ 自己資本比率は**51.3%**に増加（**1.3ポイント**増加）
- ◆ 有利子負債比率は**15.4%**と健全な状態
 - 中核事業の運転資金負担の特異性、環境対応船への対応、設備更新と増強、スマートファクトリー化等への資金需要増加に向け、資金調達の多様化を検討中

(単位：億円)	前期末 (2025年3月期)	当期末 (2026年3月期)	前期比
総資産	2,090	2,661	571
負債	1,039	1,287	248
内有利子負債	177	210	33
純資産	1,051	1,374	323
自己資本比率	50.0%	51.3%	1.3ポイント
有利子負債比率	17.0%	15.4%	△1.6ポイント

※億円未満は四捨五入

2026年3月期実績 受注残高（連結）



- ◆ 新造船事業の受注残高は4,221億円（前期比7.1%増加）
 - 大型撒積運搬船10隻、ハンディ型撒積運搬船5隻を受注し新造船事業の受注残は3年超を確保
- ◆ 修繕船事業の受注残高は102億円（前期比92.1%増加）
- ◆ 鉄構・機械事業の受注残高は80億円（前期比48.1%増加）

(単位：億円)	前期末	当期末	前期比	
	(2025年3月期)	(2026年3月期)		
新造船	3,941	4,221	280	7.1%
修繕船	53	102	49	92.1%
鉄構・機械	54	80	26	48.1%
その他	17	8	△9	△53.3%
計	4,065	4,411	346	8.5%

※億円未満は四捨五入

増減率

2027年3月期 通期連結業績予想



- ◆ ハンディ型撒積運搬船の連続建造から、大型撒積運搬船の連続建造を中心として高付加価値の大型LPG船とのプロダクトミックス建造体制への移行期となり売上高は増収の予想
- ◆ 利益についてはインフレや人件費増、課税負担等を織り込み当期と同水準を見込む

(単位：億円)	2026年3月期 通期業績 (2026年 5月14日公表)	2027年3月期 通期業績予想 (2026年 5月14日公表)	前期比	
売上高	1,590	1,700	110	6.9%
営業利益	281	290	9	3.3%
経常利益	295	300	5	1.6%
当期純利益	216	220	4	1.9%

※億円未満は四捨五入

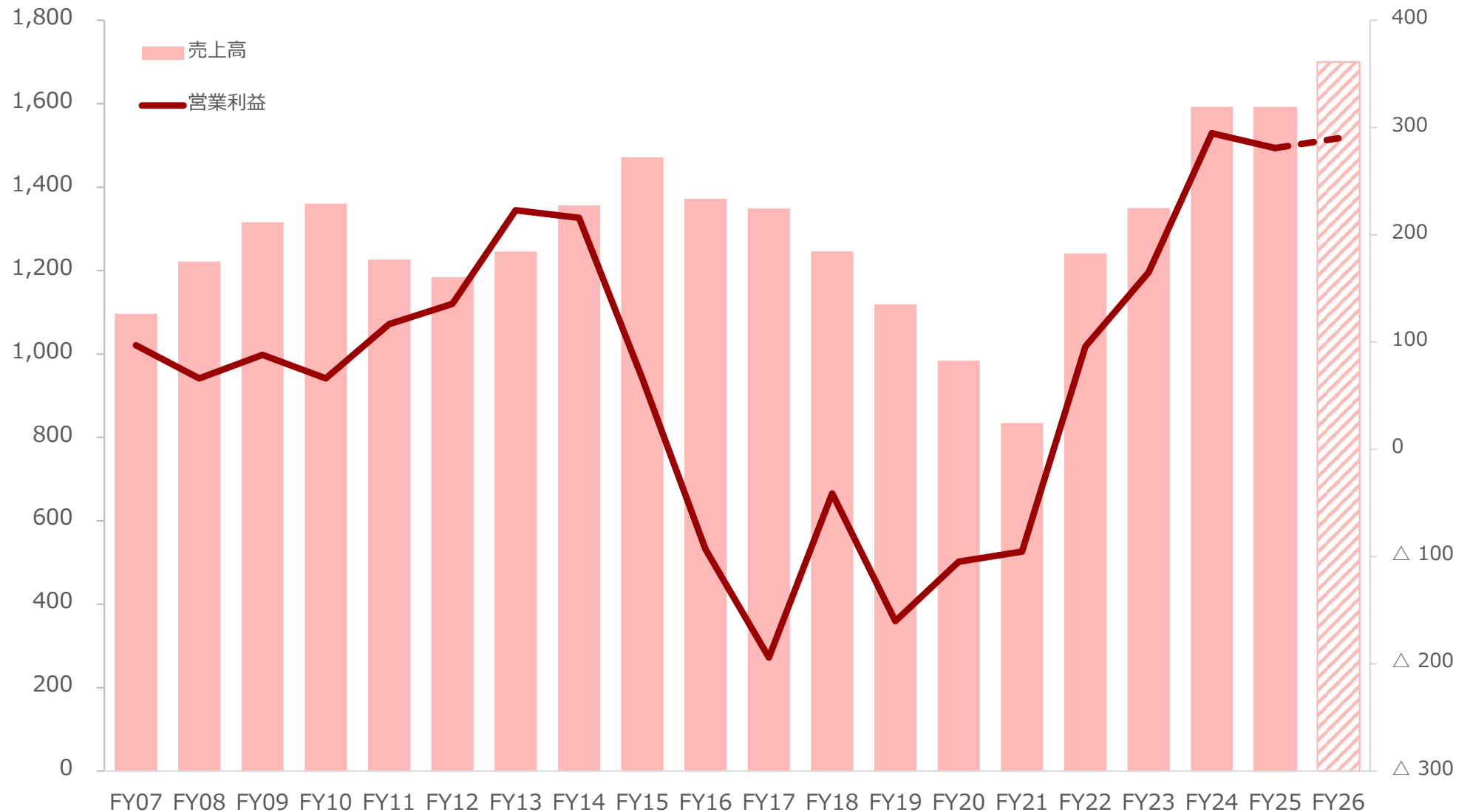
※売上計上予定の対象となる未ヘッジ外貨：670百万米ドル 155円/米ドル前提

増減率

名村造船所（連結）の業績推移



売上高（左軸：億円）および 営業利益（右軸：億円）



- ◆ 売上換算レート的前提は155円/米ドル
- ◆ 全社一丸となって生産性向上と経営の効率化を進め、収益改善と積極的な設備投資により事業基盤の強化に取り組む

	2026年3月期 通期実績 (5月14日公表)	2027年3月期 通期業績予想 (5月14日公表)	前期比	
	(単位：億円)			
売上高	337	349	12	3.5%
営業利益	47	48	1	2.5%
経常利益	48	45	△3	△5.7%
当期純利益	33	29	△4	△14.9%

※億円未満は四捨五入

増減率

◆ 継続的な**人員の増強**と**設備投資**の実施、**積極的な営業展開**により持続的な増収・増益を目指す

	2026年3月期 通期実績 (5月14日公表)	2027年3月期 通期業績予想 (5月14日公表)	前期比	
	(単位：億円)			
売上高	160	188	28	15.0%
営業利益	11	14	3	19.1%
経常利益	14	15	1	5.9%
当期純利益	15	15	0	2.3%

※億円未満は四捨五入

増減率

配当の基本方針

安定的かつ
継続的な配当に
よる株主還元

グループの
経営基盤の
強化

企業価値拡大
への挑戦

- ◆ 2026年3月期の配当は中間20円、期末20円の合計40円の期初予想から **中間20円、期末30円（10円増配）の合計50円に修正**
- ◆ 2027年3月期は当期実績と同水準の利益見込み、財務体質の改善状況等を勘案し中間30円、期末30円の合計60円とする予定



(連結配当性向)

25/3期 13.2%

26/3期 16.1%

27/3期 18.9%(予)

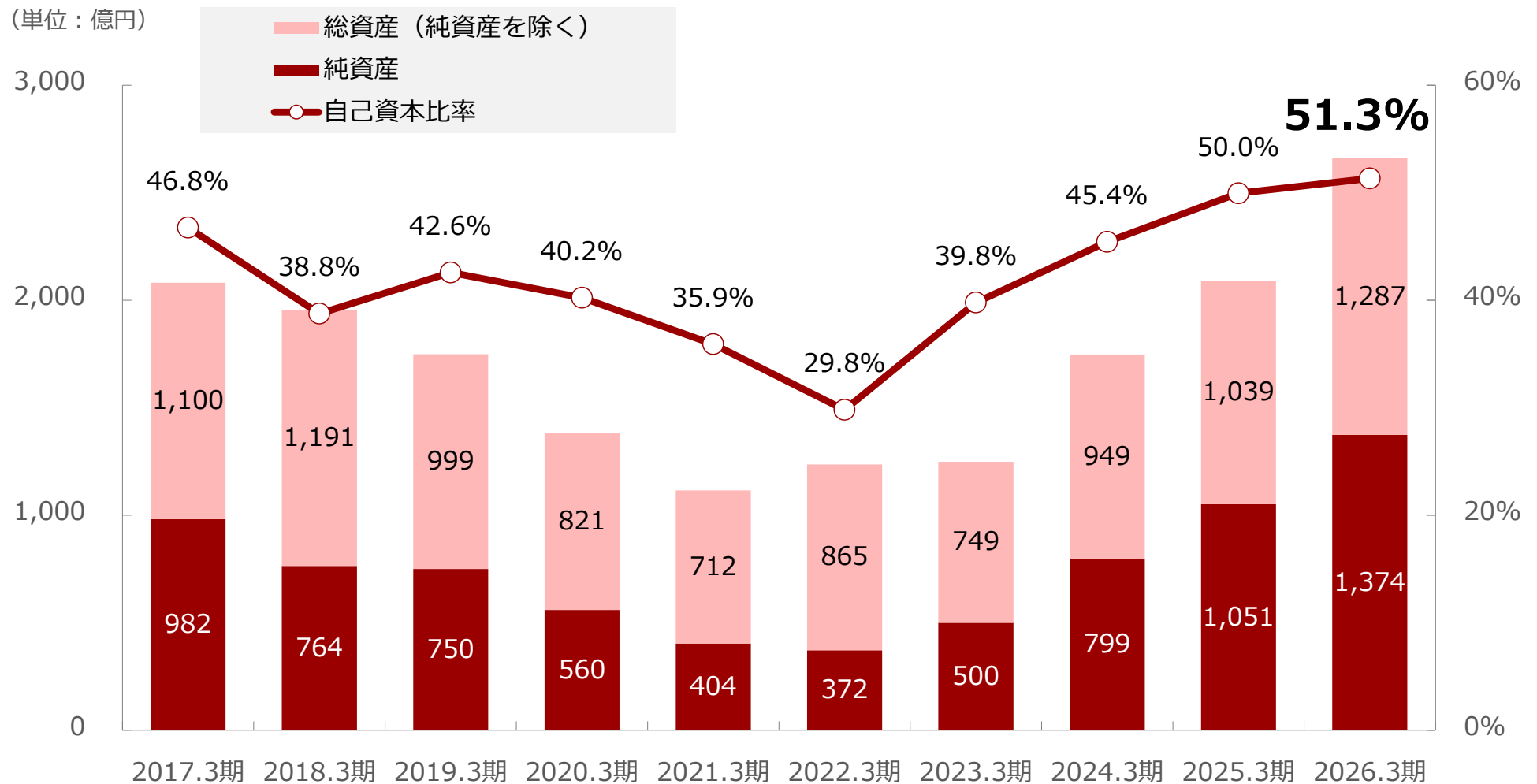
財務状況の推移（連結）



◆ 長期格付

2024年3月：BBB-（ポジティブ）⇒ 2025年3月：BBB（安定的）
⇒2025年12月：**BBB（ポジティブ）**へ着実に改善

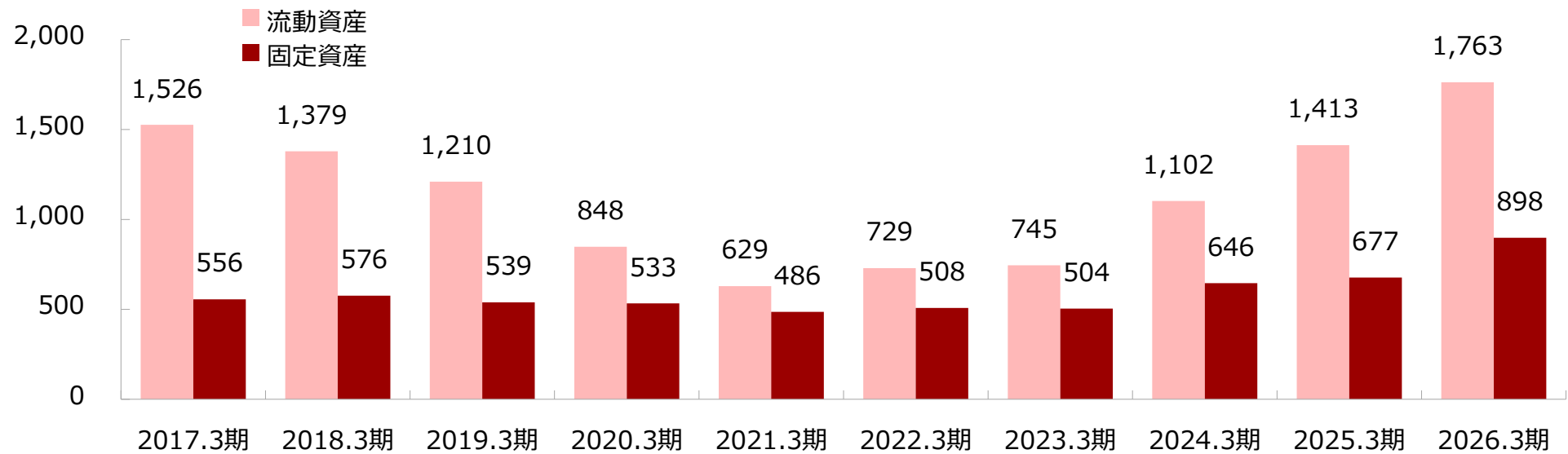
総資産・純資産（左軸：億円）および自己資本比率（右軸）



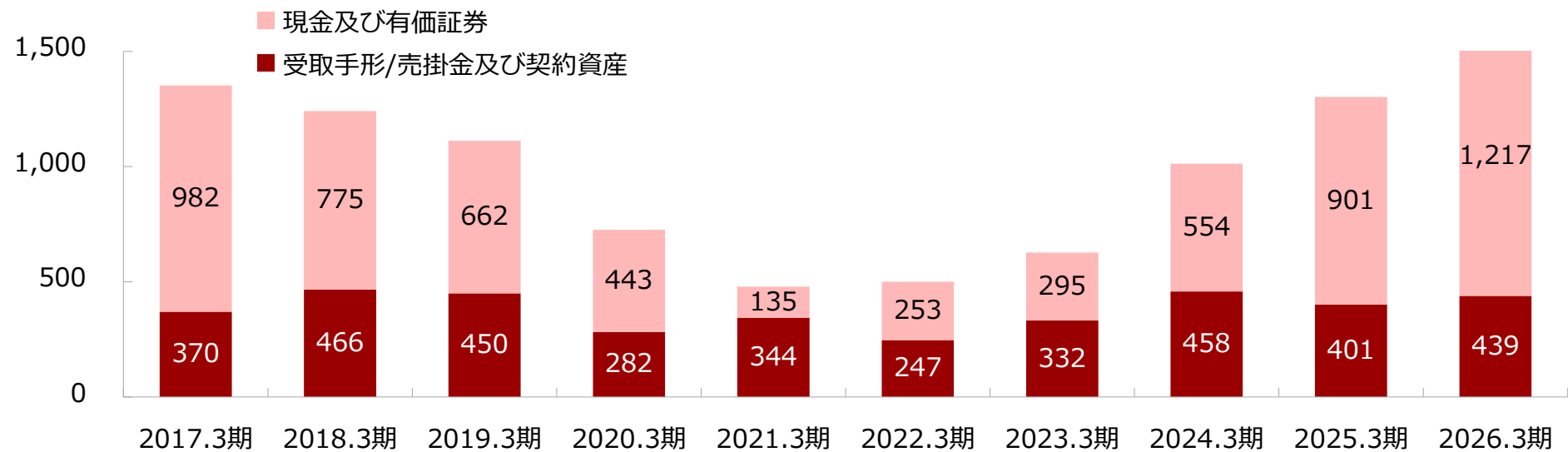
財務状況の推移（連結）



流動資産・固定資産（単位：億円）



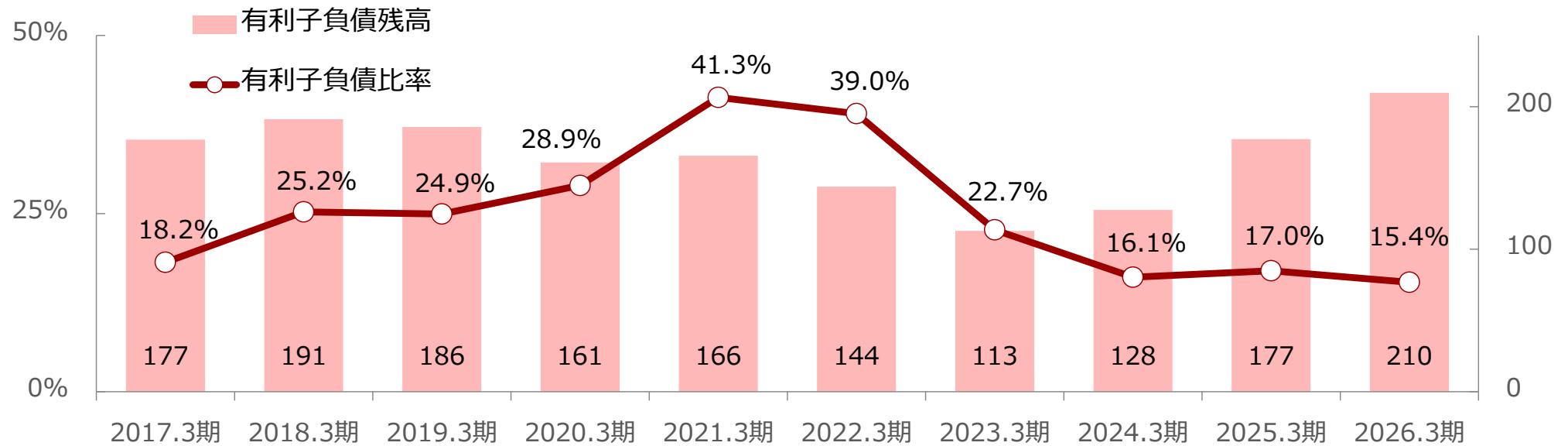
当座資産（単位：億円）



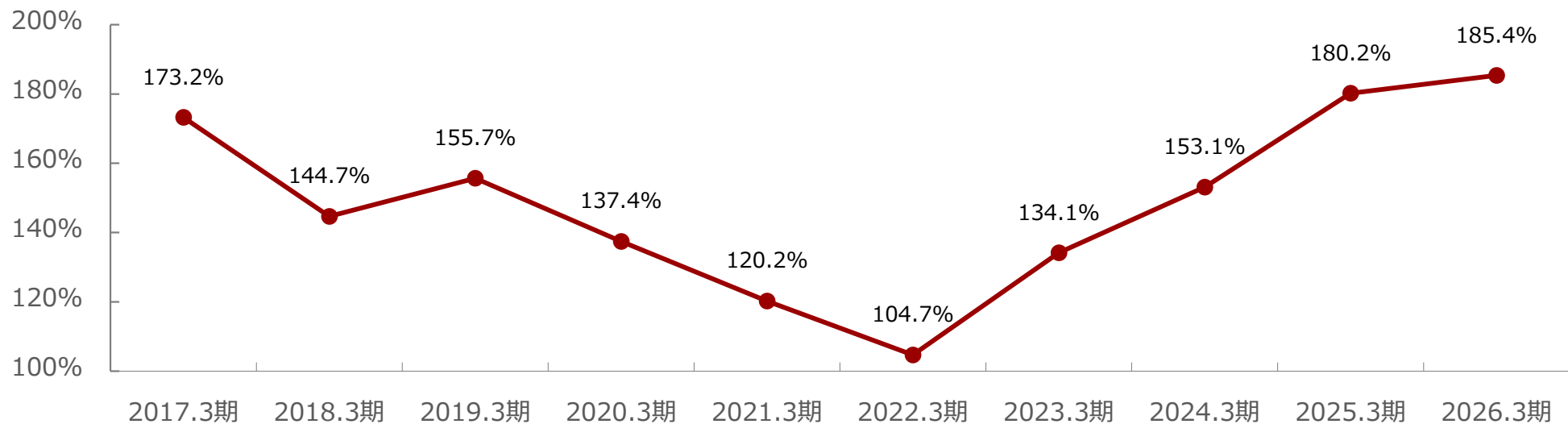
財務指標推移 (連結)



有利子負債比率 (左軸) および有利子負債残高 (右軸：億円)



流動比率 (%)





Go to the Next stage.

Worldwide Presence NAMURA



株式会社 名村造船所
NAMURA SHIPBUILDING CO.,LTD.

本資料のうち、業績見通し等に関する将来の数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。これらの業績見通しのみによりに依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願い致します。実際の業績は政治経済情勢などををはじめとする様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。